

舞台表現Ⅱ 「相手の思い」

10月の成果発表会で公演予定の「女クラ!」の稽古を進める創造表現コース3年生一同。今回は第5場「彼氏」のシーンの稽古でした。場面は、球技大会の日の放課後。女クラ生徒の一人が彼氏を待っている。遅れてやって来た彼は、その日急な打ち上げが入ったと詫びを入れるのだが実は・・・、という展開です。今回は、このシーンに出演する生徒から「生の声」を聞いてみました。その中で印象に残った所を一部抜粋させていただきます。

『台詞を発していない時の心情の変化を表現することの難しさを改めて思い知った。ただ与えられた台詞や指示された動作をこなすだけでない。その前の相手の言葉や行動を受けて、どう感じて、どのような言動で応えるか。台詞がない場面でもそんなことを常に頭の中で考え続けたいといけなから大変だ。』

皆さんは現代文の教科書などに出てくる小説問題って得意ですか？よくある「下線部cにおいて、この時の主人公の心情を50字以内で述べよ。」とかの問題、結構頭を使って解かなければならないですよ。

演劇も、小説問題を解くのと少し近い気がするんです。出演した生徒の「どう感じて、どのような言動で応えるか。」という言葉からも、演劇はただ台詞を言うだけではないことが分かります。台詞を一言発するだけでも、一人一人の思っていることを汲み取り、それに適切な返しをしなければならない。また一つ、演劇の難しさ、面白さ、奥深さを感じました。

さて、今回は「文化祭、何する？」のシーンです。以前にもこのシーンは練習したことがあり、ある程度は完成しているこのシーン。生徒たちはこの問いにどのような回答をしていくのでしょうか。

(3年 T. R)

